



# 日本物理学会領域2 役員会議

日本物理学会2025年春季大会

2024年3月18日17時30分～19時30分

オンライン開催

# 物理学会領域2役員会議 アウトライン

- 1) 2025年4月からの役員体制・役割分担
- 2) 新役員の推薦と領域代表、副代表の候補者について
- 3) 第79回年次大会(2024年秋) 学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 若手奨励賞若手奨励賞[第19回(2025年)]に関する報告
- 5) 第80回年次大会(2025年秋)シンポジウム・招待講演等の提案
- 6) 領域委員会報告
- 7) 領域2での確認事項
- 8) 講演件数の推移
- 9) 講演概要集提出率
- 10) その他

# 1. 2024年10月からの役員体制・役割分担

## (2024.4～2025.3)

領域代表	長崎 百伸 (京都大学)
領域副代表	比村 治彦 (京都工繊大)
領域前代表	藤堂 泰 (核融合研)

## (役員 2022.10～2025.9 : 領域運営委員 2022.10～2024.9)

役員	佐々木 真 (日本大学)
役員	三瓶明希夫 (京都工繊大)
役員	菊池崇志 (長岡技科大)

## (役員 2023.10～2026.9 : 領域運営委員 2024.4～2026.3)

役員(領域運営委員)	徳澤 季彦 (核融合研)
役員(領域運営委員)	松山 顕之 (京都大学)
役員(領域運営委員)	安部 勇輝 (大阪大学)

## (役員 2024.10～2027.9 : 領域運営委員 2024.10～2026.9)

役員(領域運営委員)	岩田 夏弥 (大阪大学)
役員(領域運営委員)	大石 鉄太郎 (東北大学)
役員(領域運営委員)	川面 洋平 (宇都宮大学)

	2024.10からの役割分担
大会(プログラム編集・会場設定)	松山(正)、安部(副)、川面、大石、三瓶
運営委員の連絡責任者	安部
シンポジウム・招待講演・企画講演	徳澤(正)、松山(副)、川面、菊池
企画セッション	安部、大石
3学会合同世話人	安部(正)、岩田、菊池
チームとの合同セッション担当	安部(正)、岩田、菊池
表彰・若手賞	比村(副代表)、徳澤(共同研究世話人)
学生優秀発表賞	長崎、比村
学生優秀発表賞担当	佐々木(正)、安部、岩田
会計・予算	長崎(代表)
学会連携	藤堂、長崎、佐々木、安部、岩田
広報(ホームページ)	徳澤
メーリングリスト	徳澤
編集(JPSJ)	比村(副代表)
役員会・運営委員会幹事(書記)	安部(正)、三瓶
NIFS共同研究所内世話人	徳澤

# 1. 2025年4月からの役員体制・役割分担

( 2025.4～2026.3 )

領域代表                      比村 治彦 (京都工繊大)  
 領域副代表                  江尻 晶 (東大)  
 領域前代表                  長崎 百伸 (京都大学)

(役員 2022.10～2025.9 : 領域運営委員 2022.10～2024.9 )

役員                              佐々木 真 (日本大学)  
 役員                              三瓶明希夫(京都工繊大)  
 役員                              菊池崇志(長岡技科大)

(役員 2023.10～2026.9 : 領域運営委員 2024.4～2026.3)

役員(領域運営委員)      徳澤 季彦 (核融合研)  
 役員(領域運営委員)      松山 顕之(京都大学)  
 役員(領域運営委員)      安部 勇輝(大阪大学)

(役員 2024.10～2027.9 : 領域運営委員 2024.10～2026.9)

役員(領域運営委員)      岩田 夏弥 (大阪大学)  
 役員(領域運営委員)      大石 鉄太郎(東北大学)  
 役員(領域運営委員)      川面 洋平 (宇都宮大学)

	2024.10からの役割分担
大会(プログラム編集・会場設定)	松山(正)、安部(副)、川面、大石、三瓶
運営委員の連絡責任者	安部
シンポジウム・招待講演・企画講演	徳澤(正)、松山(副)、川面、菊池
企画セッション	安部、大石
3学会合同世話人	安部(正)、岩田、菊池
チームとの合同セッション担当	安部(正)、岩田、菊池
表彰・若手賞	比村(副代表)、徳澤(共同研究世話人)
学生優秀発表賞	長崎、比村
学生優秀発表賞担当	佐々木(正)、安部、岩田
会計・予算	長崎(代表)
学会連携	藤堂、長崎、佐々木、安部、岩田
広報(ホームページ)	徳澤
メーリングリスト	徳澤
編集(JPSJ)	比村(副代表)
役員会・運営委員会幹事(書記)	安部(正)、三瓶
NIFS共同研究所内世話人	徳澤

代表・副代表・前代表のみの変更

## 2. 新役員の推薦と領域代表、副代表の候補について

2025年10月からの領域役員(2026年4月から領域運営委員)の推薦

次期領域役員 辻井直人さん(東京大学)

次期領域役員 金 史良さん(京都大学)

次期領域役員 古賀 麻由子さん(兵庫県立大)

2025年4月からの領域代表、副代表

領域代表 比村 治彦さん(京都工芸繊維大学)

領域副代表 江尻 晶さん(東大)

10月中旬に2026年度の領域代表・副代表を推薦する

### 3. 学生優秀発表賞受賞者報告

#### 第79回年次大会(2024年秋、北海道大学)での受賞者

玉城 直也 氏(阪大工院)

「金積層グラフェンターゲットを用いたレーザー駆動単色陽子加速の最適化」

山田 悠斗 氏(名大工)

「NUMBERにおける間欠的な浮遊電位揺動発生時のイオン温度のガス圧依存性」

吉村 溪冴 氏(東北大工)

「水素原子・分子線計測および衝突・輻射モデル解析による基底状態水素原子密度評価」

加賀谷 重考 氏(東北大工)

「Retarding field analyzerを用いたイオン温度計測に対するイオン流の影響の検証」

古田原 拓実 氏(日大生産工)

「ケルビンヘルムホルツ乱流におけるデータ駆動的な手法を用いた突発粒子輸送解析」

※応募者数31名の中から5名を選出。前回は29名の応募があり、そのうち5名を選出。

※2018年秋季大会から、学生優秀発表賞は日本物理学会が授与する賞となった。

※2021年秋季大会から、授賞回数の上限を2回とした。

# 4. 若手奨励賞 [第19回(2025年)]報告(1)

今回は1名の応募。選考委員は6名。

選考委員:千徳靖彦(委員長)、比村治彦(副委員長)、古川勝、神吉隆司、龍野智哉、岡本敦

## (1) 武村勇輝氏(核融合科学研究所)

研究題目: 磁場閉じ込め核融合プラズマにおける磁気島を伴う MHD 不安定性制御に向けた研究

選考理由:

国際熱核融合実験炉 ITER をはじめとする先進的磁場閉じ込め核融合装置では、磁気流体力学(MHD)的な不安定性が起こらないプラズマ閉じ込め配位を選ぶだけでなく、外部から流れや磁場を印加して能動的に制御することが期待されている。武村勇輝氏は、核融合科学研究所の大型ヘリカル装置 LHD を利用し、磁力線とゆらぎの向きが揃う(共鳴)ことで不安定となる磁気面に、外部から共鳴磁気摂動(Resonant Magnetic Perturbation; RMP)を印可し、MHD 不安定性を制御しようとする実験研究に携わってきた。

武村氏はこれまでに、ゆらぎの周波数が低下することに伴って振幅が増大するロックトモード様不安定性の物理機構の解明や、圧力揺動分布における偶奇パリティの遷移等について詳細な計測結果を、対象論文として発表している。ロックトモード様不安定性では、これまでの研究で見られるような抵抗壁との相互作用によってモードが減速されるのではなく、外部摂動磁場との相互作用によって減速されるという新たな機構を明らかにした。ゆらぎのパリティは、特に閉じ込め性能を劣化させる磁気島の存在とも関連すると考えられるが、プラズマ放電中にパリティ遷移が起こることが示され、トカマク等ほかの装置では見られなかった奇-偶遷移が起こりうることも本学会における発表で報告している。

武村氏は対象論文をはじめ、当該分野の基幹雑誌に出版された論文が多数あり、なかでも対象論文では実験の計画立案や実験計測、データ解析等に重要かつ主導的な役割を果たしたことが認められる。また異なるパリティの不安定性を、単に駆動機構が異なる2種類のダイナミクスと捉えるだけでなく、対称性に関する普遍的な現象と捉えることで、それぞれの特徴に相応しい新たな制御方法の提案へと繋がる可能性がある。これらの成果は、当該研究分野に対する貢献も大きいと評価できる。

以上の理由により、武村氏が本会の若手奨励賞を授与されるに相応しい候補者と判断し、ここに推薦する。

## 5. 80回年次大会(2025年秋) シンポジウム等の提案

- 企画セッション(1件提案)

提案者 小林達哉(核融合科学研究所)

「プラズマサイエンスの10課題と学際発展の展望」

核融合ではプラズマ燃焼時代を迎え、応用分野では技術革新が起り続けている今日、プラズマサイエンスを幅広い学術の観点から俯瞰し未解決10課題を整理する提言が見解として日本学術会議物理学委員会より表出した。多様なプラズマ系での共通課題であるこれら10課題(遠非平衡系、階層性、乱流と揺らぎ、突発性と崩壊現象、自律性とリズム、速度空間、反応場、界面と構造、核融合炉の実現、非平衡プラズマ技術)の解決に向け、分野を横断する頭脳循環を促進するためのセッションを企画する。

講演数は20件程度を想定する。

見解では、数学、複雑系科学、素粒子物理学、天体物理学、地球惑星科学、生物物理学、量子ビーム科学、材料科学・デバイス科学、触媒化学、計算・データ科学、医療科学、植物科学の各分野とプラズマサイエンスの学際的關係が述べられている。これらの分野から見解で示されている課題に因んだ講演を集め、プラズマ分野の学際化を図る。

予定実施周期：年次大会・秋季（春季）大会共に実施

## 5. 80周年年次大会(2025年秋) シンポジウム等の提案

- 招待講演(0件提案)
- シンポジウム(0件提案)

# 6. 領域委員会報告

## 1. 領域委員会(2024年12月9日、オンライン開催)

### 【報告】

- ・大会運営委員会(仮名)の新設と今後の大会開催方法について
- ・例年より1か月程度、講演申込等のスケジュールを後ろ倒しにすることが報告された。

### 【審議】

1. 2025年春季大会 理事会企画・記念講演の採択

2. 2025年春季大会 素核宇ビ・物性領域 企画提案の採択

シンポジウム講演については、3時間30分を超過している提案は理由書を提出していただくことを条件に採択となった。参考文献の情報が不足している提案についても、情報を補うことを条件に採択された。

3. その他

計算物理領域の試行に関して、前回からの継続審議として議論した。試行について大きな反対はなかったが、賞の審査やプログラム等、領域の負担が増えないよう改めて確認された。新設の意義ありと認められたとして、今後は理事会に仮領域として新設を答申する。

3-2. 前回からの継続審議として、講演概要の英語化について議論した。領域による温度差が大きく賛否は分かれたが、全体として現状維持を推す声が多く、完全な英語化には否定的な意見が多かった。

## 計算物理領域の試行開始

2024年12開催の領域委員会での新設の意義ありとの報告を受け、第710回理事会において審議した結果、2025年9月に広島大学で開催される第80回年次大会(2025年)から3年間の試行期間が開始

試行期間中は年次大会でのみ講演を募集

試行期間中は若手奨励賞・学生優秀発表賞の受賞は行わない

領域代表の皆様  
(CC:領域副代表)

今秋の第80回年次大会(2025年)から3年間、試行期間に入る計算物理領域ですが、皆様の領域の講演数が減らないようにするため、計算物理領域では全ての講演を合同セッション扱いにする予定です。

計算物理領域では「高性能計算」「計算アルゴリズム」「データ駆動科学」の3つの合同セッションテーマを検討しています。

(※参考までに、昨年の年次大会の合同セッションテーマもご参照ください。

[https://www.gakkai-web.net/gakkai/jps/jps\\_keyword/date2/con79.html](https://www.gakkai-web.net/gakkai/jps/jps_keyword/date2/con79.html))

各領域におかれましては、これら3つの合同セッションテーマとの「合同領域の希望の有無」について2025年春季大会のインフォーマルミーティング(もしくはメール審議)でご議論いただき、以下の1~8の中から選択して、**4月3日(木)までに事務局**([meeting-info@jps.or.jp](mailto:meeting-info@jps.or.jp))までご連絡いただけますでしょうか。

- 
1. 3つすべてのテーマとの合同領域を希望する
  2. 「高性能計算」「計算アルゴリズム」の2つの合同領域を希望する
  3. 「高性能計算」「データ駆動科学」の2つの合同領域を希望する
  4. 「計算アルゴリズム」「データ駆動科学」の2つの合同領域を希望する
  5. 「高性能計算」のみ合同領域を希望する
  6. 「計算アルゴリズム」のみ合同領域を希望する
  7. 「データ駆動科学」のみ合同領域を希望する
  8. 計算物理領域との合同領域を希望しない
- 

急なお願いで申し訳ありませんが、どうぞ宜しくお願いします。

領域委員長 坂本一之

# 7. 領域2での確認事項と議題

## Plasmaメーリングリスト(PlasmaML)の運用

添付ファイルは常識の範囲内で「1MB以下のpdf」

受賞報告をMLで配信可

不適切なメールは領域2代表の責任下で役員会の了承もと削除できる

## 学生優秀発表賞

一次審査の審査委員の人数を「3名」から「3名以上」とする

領域2での受賞回数を2回に制限する。

# 7. 領域2での確認事項と議題

## シンポジウム、招待講演

時間は原則3.5時間以内。

招待講演候補者の招待講演対象論文の共著者は提案者になれない。○○Groupや○○Teamsに注意。

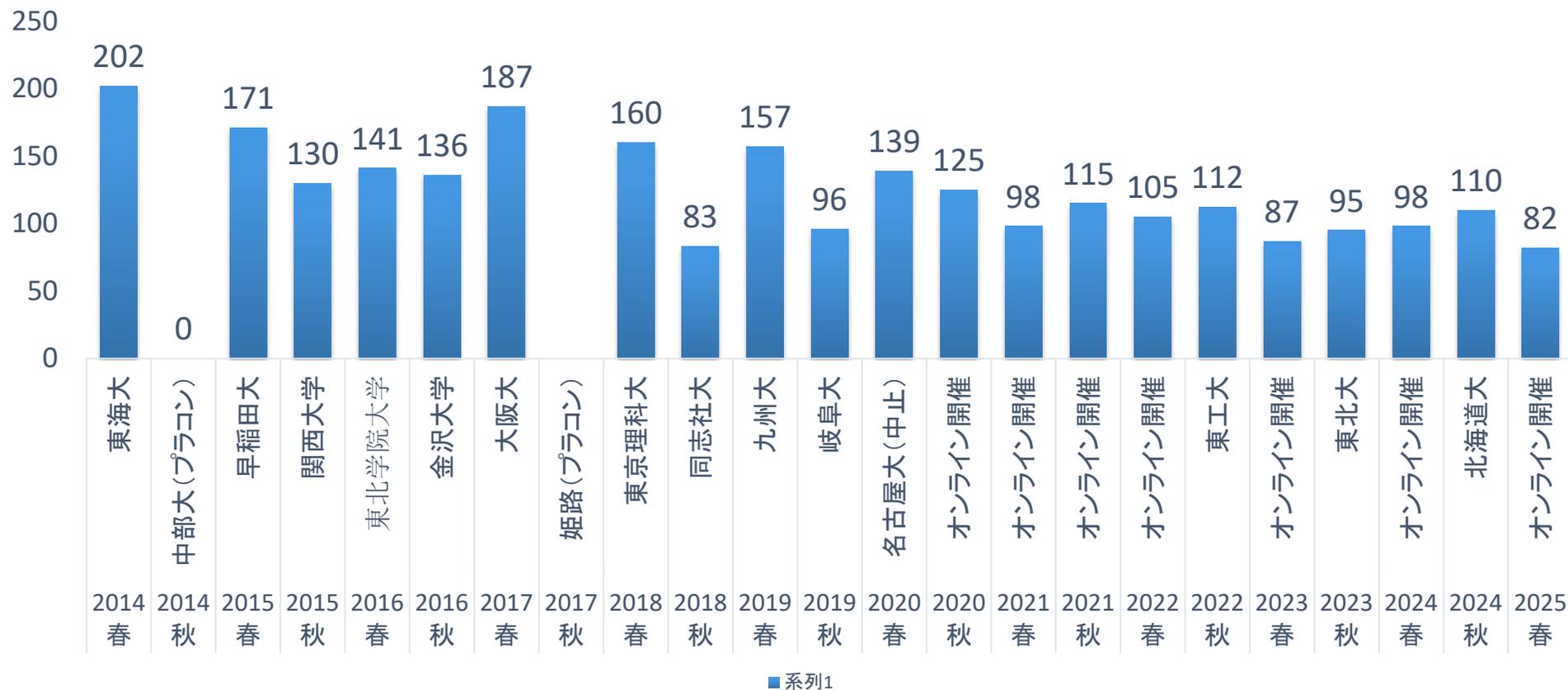
提案書では必ずreferenceを挙げる。

## シンポジウム等でのonline登壇

シンポジウム提案の際に、申込み画面の内容説明欄などで、現地開催の場合もオンライン配信になる可能性がある講演があることを明記する。

→ 今後は現地開催でも対応可能であればonline登壇を認めてはどうか？ 英語化に関連してオンラインでの海外からの参加者の可能性を広げるという議論がある

## 8. 領域2講演数の推移



※Plasma Conference 2017 一般講演(物理:135件, プラ・核:415件)

- 2021年秋～2022年秋に企画セッション開催(発表12～17件). 2023年は企画セッションなし.
- シンポジウムの開催など, 講演数増加の対応策の検討が必要.

# 9. 概要集提出率

2025年春季大会 概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	90	89	98.8%
領域2	82	80	97.5%
領域3	106	103	97.1%
領域4	74	69	93.2%
領域5	96	91	94.7%
領域6	75	71	94.6%
領域7	63	59	93.6%
領域8	214	203	94.8%
領域9	69	67	97.1%
領域10	57	56	98.2%
領域11	251	235	93.6%
領域12	71	68	95.7%
領域13	78	74	94.8%
素粒子論領域	155	86	55.4%
素粒子実験領域	189	161	85.1%
理論核物理領域	138	113	81.8%
実験核物理領域	128	120	93.7%
宇宙線・宇宙物理領域	150	114	76.0%
理事会企画	2	2	100.0%
<b>合計</b>	<b>2088</b>	<b>1861</b>	<b>89.1%</b>

物性合計	1326	1265	95.4%
素核宇合計	760	594	78.2%

# 10. その他

NIFS一般共同研究への申請について

## 80周年記念国際シンポジウム

日本物理学会誕生80周年の記念行事として、2026年9月に東京大学(駒場キャンパス)で開催される第81回年次大会(2026年)の前日(9月13日)に80周年記念国際記念シンポジウムを開催

インフォーマルミーティングにて大会期間中に国内外の研究者によるサテライトセッション(英語によるシンポジウム)を行うことのアナウンスをお願いします

## オンライン大会でのポスターセッションのあり方

会員向けアンケートの結果を受け、大会運営委員会で検討した結果  
現在のポスター発表に代わる形式の導入を検討することとなった

インフォーマルミーティングでご議論いただき、代替え案を提案して  
いただければ幸いです

# 同時翻訳字幕機能の導入について

2025年春季大会にてZoomの同時翻訳字幕機能を試行的に導入

座長、運営委員の方で操作は不要

領域内で使用した感想などのご意見がありましたら、大会後にお知らせいただければ幸いです